

■ 全体講評

今回のプロジェクトマネージャ全国統一公開模試午後 I の記述式問題は、どの問題も例年通り、プロジェクトマネージャとしてもつべき基本的な知識や考え方を問う比較的易しい問題だったと思われます。本試験でも難問奇問と思えるようなものは、最近では、まず出題されることはありません。一般的な専門知識を前提に、問題や設問の意図や説明を十分に理解すれば答えられる問題が多いといえます。問題文や設問文にある解答制約を適切に把握すれば、正解へたどりつくことが可能です。

誤答はこの手順に誤りがあった場合、例えば一方的な思い込みや自分自身の特定の経験に対するこだわりなどによって起こりうるので、解答表現や問題の意図するところの読み取りに神経を使う必要があります。

解答のポイントや方向性は間違っていないのに、設問の考えや趣旨からずれている解答も見られています。指示に従っていない解答も散見されています。問題文や設問文に書かれている表現が大きなヒントであり、解答の手がかりであることをしっかり理解した上で、要求に沿って適切な解答表現として解答をまとめるようにしましょう。そこまで限定して解答できるかといったように感じられる解答の表現やいろいろなことを列挙してどれか正解に引っかかることを期待する解答は、正解とまらないおそれがあります。

2 年目の新試験制度のもと、旧プロジェクトマネージャ試験に比べ、解答問題数が 3 問から 2 問に減っています。新制度の試験では、4 問から 2 問を選択することを示す作業が必要となります。解答用紙に選択する問題を記すわけですが、きちんと 2 問選んでいない人、丸を付ける欄を間違えている人が約 1~2 割いたように見受けられます。これは解答以前の問題なのでくれぐれも注意して、指示通り確実に問題を選択することを心がけてください。

解答方法の注意点として、とにかく問題文や設問をよく読むことがあげられます。解答のヒントやそのものを書いてある場合がありますので、それを無視した独善的な解答をしてはいけません。今回は、漢字の間違いや略字、問題文や設問文と国語論理的にずれた解答が見られています。注意しましょう。

論文系の区分の午後 I 試験は詳細な知識がなくても問題文の文脈と一般常識で解答が類推できる場合も少なくありません。最後まで、あきらめず必ず合格するという強い意識をもって臨むようにしましょう。

問1 マルチベンダによるシステム開発プロジェクトでの進捗とスケジュールの管理

【採点基準】

〔設問1〕

進捗管理の方法：「テレビ会議システム」と「進捗会議」について適切に表現していれば正解。

理由：解答例の三つと同様の趣旨が適切に指摘されているものは正解。「現状の管理インフラを活用して容易に実現できるから」は、「進捗管理ツールが利用困難であること」と同義といえなくもないが、あくまであげた方法の観点で解答すべきという考えで不正解。

〔設問2〕

(1)「単体テストと結合テスト」、「並行作業」、「スケジュール短縮」を適切に表現していれば正解。

(2)別解なし。

(3)変更作業の管理の手間の煩雑さを適切に表現して正解。

〔設問3〕

変更管理委員会の手続として一部機能の開発先送りと契約の変更を表現して正解。

【講評】

比較的正解率が高かった問題と思われます。問題文の手がかりが明確でしっかりとらえれば得点につながります。その一方で知識問題もあり、知識がない人にとっては点がとれなかったところも見られます。文章記述の解答は、表現が甘く正解とはみなし難い場合、半分の点数にしています。

設問 1 の進捗管理の方法は、進捗管理ツールをどうするという解答が散見されていますが、この点について判断する材料が文脈にないので注意してください。三つの理由はテレビ会議システムの利用という脈絡で解答するようにしましょう。同じようなことを重複して解答しないよう気を付けてください。

設問 2 では、知識の有無が問われています。ファストトラッキングと一般的なリスクについて覚えておきましょう。(3)の正解率が高くありませんでした。

設問 3 は変更管理委員会の行動の観点でとらえる必要があります。契約の変更まで解答できた人は少なかったです。

問2 システム開発プロジェクトの要員の調達と管理

【採点基準】

〔設問1〕

X社から調達する場合のリスク：備品調達管理の業務知識の不足から起こりうる進捗や品質などのリスクを適切に表現できれば正解。

Z社から調達する場合のリスク：要員コスト高によるプロジェクトへのコストリスクを適切に表現できていれば正解。

〔設問2〕

(1)別解なし。

(2)Web系データベース開発技術と備品調達管理の業務知識の両方を表現して正解。そうでないものは誤り。

(3)「開発部門長」と「承認」を含め正しく表現して正解。そうでなければ誤り。

〔設問3〕

(1)簡単な仕事についての公平な割当てについて表現していれば正解。もうひとつの解答は教育訓練の実施について適切に解答していれば正解。限定的な言い過ぎの解答は半分。根拠がはっきりしない解答は誤り。

(2)F課長がコミュニケーションを仲介することを明確に表現して正解。環境や場の設定のみや双方向性がない解答は誤り。

【講評】

最も易しい問題だったと思われます。高評価を得るためにぜひ選択したい問題でした。あまりひねりがなく問題文の手がかりを適切にとらえれば高得点につながります。なお設問3は手がかりをとらえにくく少し難しかったようです。

設問1のリスクに関する問いは、内容的に易しかったです。ただし、リスクについて適切に表現できていない解答が散見されていますので注意してください。

設問2は(1)は容易でした。(2)は二つの解答要素がそろっていない場合や表現が抽象的な場合、誤りとしています。注意してください。(3)は「開発本部長」をきちんと表現できていない解答が散見されました。

設問3は難しかったようです。あくまで個人的なコミュニケーションの問題であり、「直接的」という問題文の手がかりから解答が導けます。驚いたのは「飲み会」という解答が多かったことです。このような俗人的な表現が求められる解答は考えられません。模範解答としてあり得るかどうかわよく考えて、プロフェッショナルな解答表現を心がけてください。

問3 プロジェクトのリスク管理

【採点基準】

〔設問1〕

(1)A社のプロジェクトメンバの英語力の未熟さにまつわるリスクを適切に表現できれば正解。

(2)A社側の英語能力の確認とD社の日本語能力の確認について適切に表現できれば正解。なお解答例の趣旨から著しく逸脱し言い過ぎのものは半分。あまりにかけ離れているものは誤り。

(3)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し6点。その他は、基本的に0点。

〔設問2〕

著作権の帰属について適切に表現できていれば正解。「著作権」という表現がなければ誤り。

〔設問3〕

(1)D社の理解度を確認を適切に表現できていれば正解。

(2)単体テストのデータの取扱いの不備を適切に表現できていれば正解。

【講評】

リスク管理の問題でした。この問題は解答数が6個とすべての問題の中で最も少なく、そういう理由で選択した人が多かったのではないのでしょうか。じつは解答当りの文字数が多く、手がかりが絞りにくい最も難しい問題だったと思われます。解答数が少ないからといって簡単とは限りません。特にひとつの問いの解答文字数が多い場合、解答のまとめが難しいことが多く、得点につながりにくくなります。あくまで内容本位で問題を選択することをお勧めします。問題選択には十分注意してください。なお、解答解説P34下から2行目に社名の誤植がありました。正しくは「B社が使用している…」→「C社が使用している…」となります。申し訳ございませんでした。

設問1のオフショア開発の委託先に関する問いは、内容を絞りにくいので注意しましょう。(1)では何が問題となるのかまできちんと説明していないと誤りとなります。(2)は要点をしっかり抑えて限定的になり過ぎないように解答する必要があります。

設問2は容易な設問でした。この場合「著作権」がキーワードとなりますのでしっかりと表現する必要があります。

設問3はやはり解答のまとめ方が、難しかったようです。(1)は手がかりが分かりにくくいろいろな解答が散見されています。(2)は手がかりに気がつけば、確実に解答できます。テストデータについて表現していないと誤りです。

問4 システムの品質管理

【採点基準】

〔設問1〕

- (1)改造していない部分に対する影響度のテストの必要性を適切に表現できれば正解。
- (2)改造する割合が相対的大きくなっていることに着目して適切に表現できれば正解。

〔設問2〕

- (1)サブシステム名：別解なし。
理由：解答例と同等の趣旨を表現できていれば正解。
- (2)経験者を加えた設計レビューの実施について適切に表現できていれば正解。

〔設問3〕

- (1)「技術情報サブシステム」、「基準値を大幅に上回ること」を適切に表現できていれば正解。なお、解答に社名の誤植がございました。深くお詫び申し上げます。正しくは「A社」→「J社」となります。
- (2)全サブシステムに経験者と未経験者をバランスよく配置することを適切に表現できていれば正解。なお、解答に社名の誤植がございました。(1)と同様に正しくは「B社」→「J社」となります。

【講評】

表をもとにした品質管理の問題でした。この問題も解答文字数が50字や60字という問いが見られていて、解答表現をまとめるのが困難なことが多く、解答しにくい問題だったと思われます。しかし、手がかりは多いので、じっくり取り組みれば高得点も可能です。

文章記述の解答は、表現が甘く正解とはみなし難い場合半分の点数にしています。なお、解答解説 P384 行目・7行目に社名の誤植がございました。深くお詫び申し上げます。正しくはどちらも「I社」→「J社」となります。

設問1は、改造に関する特徴の一般的な知識を前提としています。要点を確実に押さえる必要がありますので注意してください。

設問2の(1)のサブシステム名はよくできていました。理由は設計工程のバグが多いことは誤りとしました。製造工程バグもやはり比較して多いのです。ここでの趣旨は全体の合計バグ数が多いことなので注意しましょう。

(2)はいろいろなことを書き過ぎた場合半分の得点としています。また、設問3の(2)と重複するような解答は誤りとしています。注意してください。

設問3の(1)は対象となるサブシステム名がはっきりと表現できていない解答が多く見られています。

(2)はあくまで全体のサブシステムのバランスをとる

趣旨で解答する必要があります。局所的な観点での解答や限定的で言い過ぎている解答は半分もしくは誤りとしています。

とにかく記述式の解答は、問題文を踏まえて「いえるレベルで」解答をまとめることが大切です。また、ぞんざいな表現や稚拙な表現は避けてよりプロフェッショナルな表現を心がけてください。そうすることが得点力を高めまし、解答の実力を養っていくことにつながります。

以上